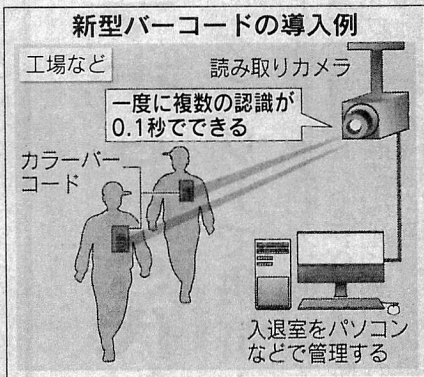


ビーコア、3色バーコード開発

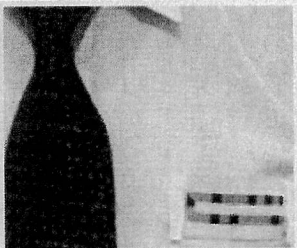
カメラで瞬時読み取り



最速0.1秒、入退室管理向け 動いていても自動認識

画像認識技術のビーコア(東京・千代田、水野廉郎社長)は、工場などの製造現場向けに色を使った新型バーコードを開発、販売を始める。0.1秒でバーコードを読み取る専用のカメラも開発、従業員の制服などに縫い付けたバーコードを一瞬で読み取れるようにした。普及するICタグなどに比べ、導入コストを最大4分の1に抑えることが可能で、生産現場での入退室管理などで需要を見込む。

カメラで色の変化点を読み取り対象物を認識する仕組み。色の順番だけ分かればいいので、多少のゆがみやブレにも強い。4月から工場導入試験を始める顧客もあり、春以降、販売代理店経由で本格販売に乗り出す。200種類のバーコードを一括で読み取ることも可能。従業員の制服に縫い付けて利用すれば、



ビーコアが開発したカラーバーコード

1度にたくさんの方が殺到しても瞬時に入退室を認識することができる。バーコードをシールにして書類の背表紙に付けることもできるため、現在は銀行で書類の管理用途としての導入例が多いという。

これまでではファイルや本などの静止する対象物向けだったが、動く物にも対応できるよう読み取りカメラの精度を向上。カメラの通信速度を高め、最速0.1秒でカラ

ーバーコードを読み取る。従来の白黒バーコードはゆがみがあると認識できなかったが、カラーバーコードなら従業員の制服に縫い付けていてもカメラに映れば確実に読み取ることができる。

工場などの製造現場では、従業員の入退室を管理する際にICタグを使うことが多いが、専用の機械にかさす必要がある。導入コストも高い。カラーバーコードならかさす必要がなく、離れてい

もカメラに映っていれば自動で認識される。コストの削減や手間の軽減にもつながる。

白黒の印刷バーコードとICタグに次ぐ新たなバーコードとして、使用用途を広げたい狙い。2015年までに、カラーバーコードを取り扱う販

売代理店を、現在の10倍程度の100社に拡大したい考えだ。